

僕を助けてくれた税金

唐津市立巖木中学校1年 田久保 翔夢

僕は十二年間ずっと税金のおかげで病院に通えています。僕は生まれて十ヶ月で全身火傷を負いました。その時、僕は救急車で大学病院に緊急搬送され沢山の管に繋がれ、生死をさまよい二ヶ月入院し、何回も何回も手術を受けました。今でも一年に一回は必ず手術をしたり、検査や治療をして、その度に、高額療養費制度や子ども医療費助成制度を受けています。

僕の十二年間は、たくさんの医療によって助けられてきました。これまで、僕は受診することを当たり前と思い、治療費や薬代のことを考えたことがなく、何も思わず過ごしてきました。今回、これらの医療制度の財源の中心となるのは税金であることを知りました。

母は病院に行くとき必ず診療明細書をお願いしています。三割負担で助かると。そして医療費受給資格証のおかげで薬代合わせて千円で助かると。母がなぜ診療明細書を必ずもらうのか不思議に思っていました。母は、全額自己負担だとこれほどお金がかかると言う事を頭に入れる為だと知りました。

母は病院に行く度に、受付の人、看護師さん、お医者さん、駐車場の警備員さんにお礼をいいます。僕はそれを十二年間ずっと見てきました。母は全ての人に感謝しているという事を。母は僕に何も言わないけれど今の僕にはこう聞こえます。今、生きれている事は当たり前じゃないと言う事を。税金がなければ、高額なお金がかかり治療できずにこの世にいなかったかもしれないという事を。

僕は五人兄弟です。そのうち、四人は大学病院に通っています。四人それぞれ検査、治療、薬が必要です。もし、税金がなければと考えた時、そのお金はきっと払えないと思いました。僕が入院した時、全額自己負担だと何十万とかかるのを知ったからです。税金がなければ四人も一回の検査、治療、薬代に何万円とかかる事になります。

僕達の暮らしで、税金を頼っていない人はいないのだと思いました。この税について考えたとき、人それぞれ思う事はあるのだろうと思います、税に対する考えが少ない人はあまり良い捉え方はしないのかもしれないけど、税金について考える事、それは大人になった時きっと役に立つと思います。みんなが互いに支え合い、共によりよい社会を作っていくため、税金は大切だと知りました。僕は税金に対する考えをもっと深めていきたいと思っています。

僕達の日常の中で、支払っている税金、それは病気と闘っている人を救う事であり、困っている人の手足であり、税金を支払っている僕達一人一人が真剣に税と向き合っていかなければと感じました。僕を助けてくれてありがとうございます。これからも皆さんの助けが必要です。沢山のの人に感謝をして日々生きていきます。